自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0190501817		
法人名	株式会社　風和里		
事業所名	グループホームふわり藻岩下　1階		
所在地	札幌市南区藻岩下4丁目2番7号		
自己評価作成日	令和元年8月25日	評価結果市町村受理日	令和元年10月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501817-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれた環境に立地しており、四季折々の変化を肌で感じられることができる。鹿やキツネなどの動物を見ることもあり、共存していると感じるところもあり、昔をよみがえらせる環境にあると考えます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年9月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームふわり藻岩下」は札幌のスキーヤーのメッカ、藻岩山スキー場の麓に位置し、窓からは藻岩山、その反対側に眼を向ければ羊ケ丘、札幌ドームなどが一望される立地条件にある。当事業所は2017年1月に2階建て、2ユニットとして、職員はまだ欠員があるものの、職員が管理者を中心として理念に基づいた18人の利用者の為の介護を目指して日々奮闘努力を重ねている開設されて3年目の初々しいグループホームである。3年という短い時間の中で、利用者と職員が作り上げようとしている当事業所の優れた点は、第1に、毎月欠かさずに家族に送付されている利用者個々人に特化され、"元気な笑顔""ありがとうの心"で利用者の日々の介護に当たる職員の手書きによる一言と利用者一人ひとりの笑顔の写真が添えられる『ふわり藻岩下便り』が挙げられる。第2点としては、開設当初より重度化した場合の利用者、その家族の意向、思いを込めた「看取り介護指針」を作成することにより職員の研修等も含めた"看取り"支援の充実を図っていることである。「一人ひとりの意思を尊重し、地域に根ざし、共に笑顔でゆったりと安全で健康な生活ができるように支援します」という介護を実践する3年目のグループホーム「ふわり藻岩下」の今後になお一層の期待をしたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チームワークつくりや、ケア等の話し合いを行い理念の共有意識を高めている	開設3年目ではあるが、管理者を中心として職員は基本理念、介護理念に基づいた介護を目指しており、その理念は研修等で常に確認することとしており、職員は日々の介護の中での実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが、地域のイベントに積極的に参加している。	開設当初より町内会に加入しており、運営推進会議に於いては町内会長の出席を得ており、利用者、職員は町内会行事に積極的に参加することとしており、又事業所の行事に地域の方々に声をかける等して地域との付き合いに努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況や行事などの報告を行っているがサービス向上にはつながってはいない	運営推進会議は開設3年目にも関わらず地域包括センター、町内会長、後見人、家族等の参加を得て、滞ることもなく2ヶ月に1回開催されており、その中で事故報告等も行われ、その議事録は毎回全家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施されておらず	区による管理者会議に積極的に参加しており、又区の保護課に於いても更新時等に緊密な連絡を取り合い、市、区主催の研修等にも積極的に参加することとしており、行政との緊密な関係を構築し始めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を発足し、実態の把握、職員の身体拘束にむけた取り組みを行っている	開設当初より「身体拘束廃止委員会」をつくり、身体拘束を廃止していくという方向性を持って、管理者始め職員は研修等によって身体拘束をしない介護の実践に日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、内部研修を行い理解している。又ケア時の声掛けに注意し合える環境つくりをしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解度にばらつきがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明不足により、家族の納得を得られていなかった部分があった。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションをとり、言いやすい環境つくりを心がけている。	意見箱を設置し、又家族来訪時等に意見等を積極的に聴取しており、「ふわり藻岩下便り」は利用者個々人の笑顔の写真、利用者の日々に寄り添う職員の一言を添え、利用者一人ひとりに特化して毎月１便も欠かすことなく全家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議で意見交換している	職員の意見、意向の聴取は、年2回の法人の管理者による面談、又事業所管理者による随時の面談等が行われており、日常に於いてはカンファレンス、申し送り等で話し合い、意見を交換し、運営に関する職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・12月に目標管理シートを提出し上司との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修への参加、資格取得への積極的な支援を行っている。（就業開始から半年となっているが、、未経験である場合には早期に初任者研修を受けて頂き考えながら働くことを実施している）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加を積極的に行い他事業所との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員がコミュニケーションを図り要望や気持ち等を聴き取りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や見学時に話をお聴きする時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランに従い相違部分の修正を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者との関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力や来設時には一緒に介助を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れやすいが途切れていない縁に関しては大切にしている。	利用者の馴染みの人、風景、味等が絶えることの無いように、事業所では家族の協力を得ながら、外出、墓参り、我が家への帰宅等が行えるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し接触に注意している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は関係が薄くなっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聴き取りや言動・行動から読み取り、把握に努めている。	”一人ひとりの意思を尊重し”の理念に基づいての寄り添う介護から、又何気ない会話の流れから職員は利用者の思いや意向の把握に努めており、その思い、意向は介護計画に記載され利用者への日々の、そして終末期の介護へと連携していく事としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前事業所に聴き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にＡＤＬや心情の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話したりカンファレンスで意見の抽出を行っている。	聴取、把握された利用者、家族の思い、意向を前提として介護計画を作成し、職員は3～4ヶ月毎に見直しをすることとしており、更に月１回のカンファレンス、毎日の申し送りに於いても情報を交換そして共有し、介護計画が利用者の日常生活の基本となるように日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と支援内容が別れて記入方法している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を目指し意見交換している。又、実施にむけ取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までには至っていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、薬局との関係を築いている。又ご家族の希望があり薬局はご家族指定のところを使っている。	協力医療機関は24h体制であり、月2回の訪問医療そして週1回の訪問看護体制がつくられており、専門医への受診は職員が対応することとしている。利用者の為に職員は理念である「ゆったりと安全で健康な生活ができるように支援します」を日々実践している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し次につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員と連携をとりながら支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アンケートというかたちで意向を受けている。	看取りは介護の最終結果であるという観点から「看取り介護指針」を作成し、契約時に利用者、家族の同意を得、職員はこの指針に基づいて研修等を行い、又利用者の重度化に伴う医師、家族等の意見から「看取り介護同意書」を作成、職員は介護の最終結果“看取り”に積極的に取り組む事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は定期的に確認している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はあまり築けていない。	年2回の昼、夜想定の火災避難訓練を消防署、防火設備会社の指導、協力の元に行っており、自然災害等に対する備蓄品等も備え、利用者の安心、安全の為に日々努めている。	市指定の避難所は急な坂道を下り、かなりの距離を歩く事になり利用者にとっては危険な為、避難所を事業所より極力近い所へ早急に決めることとし、又その結果を全家族に告知することにより、利用者の為の安心、安全になお一層の期待をしたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関して話し合いを行い、行き過ぎた言動の際には支援を交代するなどしている。	利用者への呼びかけは苗字に“さん”付けとし、職員は利用者の人格を尊重し、研修、カンファレンス等でも話をして留意している。トイレの造作に通路から丸見えとならないような細やかな気配りがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースを考え業務のあり方を検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や、髪型、身だしなみには注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを提供できるよう調理の工夫、嚥下状態を把握し食べやすいように工夫している	利用者個々人の体調を確認しながら、それぞれに普通のご飯、又は小さなおにぎり等にするという細やかな気遣いをしている。そして、年に1回餅つきをして、小さく小さくしたつきたての餅を食べて利用者と職員は楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立・好みの飲み物等把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力を活かし仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間誘導、布パンツへの移行、トイレでの排泄を支援している。	リハパンツ、パット使用の利用者が8割程となっており、夜間はおむつ仕様となっているが、昼間は職員が排尿のサインを見落とさないように常に気を配り、時間誘導も行ない、トイレでの排泄が基本となるように日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効果のあるもの、十分な水分補給を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合になっている。今後の課題である。	職員からの「利用者が自由に入浴できるようにしよう」との意見から、入浴の曜日、時間も決めずに利用者の入りたい時に、夜でも入れるようにしており、お湯は一人1回で交換して利用者は入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間や、寝具の餞別を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の理解度にばらつきがある。統一して理解を深めていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々に日々の中に余暇活動の充実に努めたい。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望をくみ取り外出支援をしている。	季節ごとの外出レクリエーションはユニット毎に行い、利用者は季節感を楽しんでいる。日常は駐車場等での外気浴をしているが、藻岩山の麓でもあり、時には鹿、リス、キツネ等が顔を見せることもあり、ここでも充分に季節感、自然を感じることができる。又、車で職員と利用者は一緒に買い物なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭をお持ちの方もいるが使うことへの支援は出来ていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今後取り組んで行きたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感はもう少し出していきたい。飾りつけに頑張っている。	事業所内は白色を貴重として床はフローリング、リビング、食堂のベランダのガラス戸は大きく、明るい日差しが降り注ぎ、そこからは札幌の羊ケ丘、札幌ドーム、その周り住宅の街並みが大パノラマとなって眺望される。食堂には温かく美味しい香りが漂い、利用者と職員の会話が音となり、そこには基本理念となる「ありがとうの心」と「元気な笑顔」が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所処に、座るスペースがあり各々思い思いに座って過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具を持参して頂いている。	居室は通路の片側の窓からは藻岩山、反対側は羊ケ丘方面が眺望され、一人で過ごす最良の空間となっており、介護理念となる「一人一人の意思を尊重し、地域に根ざし、共に笑顔でゆったりと安全で健康な生活ができるように支援します」の職員の笑顔の介護の中で、利用者は安心、安全の日々を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来ることを判断しながら、活動や、生活するうえで必要なことをしていただいている。		